

2024.6.9. ここのか祈祷会 VOICES

- ・ >いのち基金にかかわって、情報を共有していくと次第に関心が深められている反応をもらい励みになった
- ・ >共にこの課題を考える仲間が増えていることは嬉しいなと思う
- ・ >難民・移民キリスト者フォーラムでは、さまざまな活動をしている人が交わりをもてて、熱を感じた
- ・ >身近に当事者がいないから何もしなくてもいいではダメだという声がフォーラムでも共有された



- 備えをしているところにこそ、出会いがあると思う
- 外国人労働者が多い地域にあり、教会にも外国人労働者が来られている。生活上の相談を受けることがある。技能生も多く、農業、畜産に関わられている方が多い、ベトナム、ミャンマー出身の方々だ。今後の状況によっては、この人々を取り巻く状況が厳しくなるという思いがある。フォーラムの話を聞いてどんどん相談にのっていかうと思った。
- フォーラムの感想の中で一番心に残ったのは、「自分は外国人だから声を出すことができない」だった。だからこそ、自分が何かしなくてはと思った。

- 永住資格を持っている方が教会の中に何人かいる。今後どうなるかなと心配になっている
- 具体的に行動できるのであれば教えて欲しい。

→すぐに取り消しをするというようなことは、しないと国会審議上は言われている。悪質な滞納者に限って永住資格を取り消すと言っている。でもこれは詭弁だと思う。実際は永住を取り消して、いつとき定住に変更するというようなことが言われているが、審議されている法律にはそのことが書かれていない。つまり、自由裁量になる。国会答弁と実際にやることに齟齬がある。つまり、いわば脅しである



- 参議院法務委員会で、中華学校の校長理事長が参考人で呼ばれ、発言してくださった。日本に住む「華僑」（在日中国人）は、100年前から日本に住んでいる。いきなり取り消すことができるなどとは、一体何ごとかと発言された。政府がこの間、「外国人材」を日本で活用、育成といっているが、外国人の「人材」の「材」しか見ていない、「人」を見ていないと率直に話してくれた。